

子宮鏡下卵管通色素検査について

<目的>

卵管が狭窄あるいは閉塞しているため、妊娠しづらくなっている可能性があります。卵管の疎通性を、片方ずつ、色素が流れるかどうかで確認する検査です。

<方法>

軟性子宮鏡で卵管口を確認し、カテーテルを5～10mm 卵管に挿入します。

色素を注入し、流れていくか、戻ってくるか確認します。

超音波で卵管留水症になっていないこと、異常出血等ないことを確認し、検査終了です。処置時間はおよそ10～15分です。

<麻酔法>

無麻酔あるいは静脈麻酔

<危険性・合併症>

- 1、 出血：手術中や術後に数日少量の出血を認めることがあります。
- 2、 感染：抗菌薬の予防投与を行います。術後に発熱や腹痛を認める場合には入院治療や手術が必要となる場合があります。
- 3、 子宮・卵管穿孔：偶発的に子宮・卵管に穴があくことがあります。その場合、他臓器の損傷の可能性があるため、入院や開腹術が必要となる場合があります。
- 4、 麻酔合併症：血圧低下、徐脈、アレルギーなど
極めて稀ですが、数万人に1人の悪性高熱症候群を発症した場合には救急搬送となり、高次施設で対応します。

<代替手段>

- ・ 卵管を必要とする妊娠を目指す場合：卵管鏡下卵管形成術（FT）
- ・ 卵管を必要としない妊娠を目指す場合：体外受精-胚移植

<その他>

- ・ 検査当日はシャワー浴のみとしてください。その後は体調に合わせて入浴可能です。
- ・ 内容によっては検査周期から不妊治療が可能です。

ご不明な点があればご遠慮なく医師・看護師にお尋ね下さい。